

3月の安心かわら版



3月の主な行事

3日 : ひな祭り	14日 : ホワイトデー
5日 : 啓蟄	20日 : 春分の日
13日 : 十三参り	



春分の過ごし方

「春分」。国民の祝日でもある「春分の日」は、お墓参りに行ったり、ぼたもちを食べたりする方も多いのではないのでしょうか。今回は「春分の日」の過ごし方などをお伝えします。

墓参り編

春のお彼岸や秋のお彼岸の時期には、昔からのお墓参りに行く習慣があります。「秋分の日」は「国民の祝日に関する法律」によると、「祖先をうやまい、なくなった人々をしのぶ日」とされています。お彼岸の時期にお墓参りに行く習慣ができた理由には諸説あります。「彼岸」とは人間の迷いや苦しみの元となっている煩悩のない世界のこと。それに対して、煩悩に満ち溢れるこの世の世界を「此岸(しがん)」と呼びます。「春分の日」と「秋分の日」は此岸と彼岸が最も通じやすい日といわれ、この時に先祖供養を行うことで、極楽浄土へ近づけると信じられているという説があります。そのため、お墓参りをこの時期に行うことが習慣化されたといわれています。

食べ物編

春のお彼岸によく店頭に並ぶのが「ぼたもち」です。もち米を蒸してつぶしたものをあんこで包んだ、昔ながらの食べ物です。あんこの原料は「小豆」ですが、小豆には古くから「魔除け」の効果があるとされています。

「ぼたもち」は、「おはぎ」と同じようなものですが、春は牡丹(ぼたん)の季節なので「牡丹餅(ぼたもち)」と呼ばれ、秋は秋の七草でもある萩(はぎ)が咲くので「お萩(はぎ)」と呼ばれます。食べ物にも季節を感じられるネーミングですね。

「ぼたもち」と「おはぎ」は一見似ていますが、実は作り方に違いがあります。秋の「おはぎ」は小豆の収穫期に作られ、この時期は、小豆の皮が柔らかく、皮もつぶして作られるため、粒あんが使われています。一方、春の「ぼたもち」は、小豆は秋の収穫から時間がたって皮が固くなっているため、皮を取り除いたこしあんが使われています。こしあんをつかった「ぼたもち」ももちろん美味しいですが、あんこだけではなく枝豆やきなこ、すりごまなどを使って、色とりどりのぼたもちを作るのもいいですね。



レジアスインパクト(株)秩父支店

chichibu@rezeous.co.jp

〒368-0024 埼玉県秩父市上宮地町26-21

TEL 0494-27-3210 FAX 0494-26-6555

事務所の電話番号も登録をお願いします！